

## 中国天津市における幼稚園の現状視察

Report of an Inspection Visit to Kindergarten in Tianjin

玉瀬 友美（高知大学教育学部）<sup>1</sup>

劉智萍（天津師範大学）<sup>2</sup>

TAMASE Yumi<sup>1</sup> and Liu Zhiping<sup>2</sup>

*1 Faculty of Education, Kochi University*

*2 Faculty of Education and Science, Tianjin Normal University*

### ABSTRACT

We visited a kindergarten in Tianjin, China in March 2019. This article summarized the current state of early childhood education in China and reported on educational practices at the kindergarten in Tianjin. The kindergarten teachers, like Japanese kindergarten teachers, posted children's works and photos for parents, prepared a childcare environment for children to play project-type games and devised teaching materials. On the other hand, they conducted consumer education for kindergartners, which Japanese kindergarten teachers did not do much.

## 1. はじめに

筆者らは、2019年3月に、中華人民共和国（以下、中国）天津市の幼稚園を視察した。中国の幼児教育はさまざまな変遷を経て、現在は子どもの主体性を重視したものとして位置づけられており、「幼児の主体的な活動が確保されるよう幼児一人一人の行動の理解と予想に基づき、計画的に環境を構成」することが幼稚園教育要領(2018)に明記されている日本の幼児教育との共通点がみられる（中尾,2008）。本稿では、現在の中国の幼児教育の現状をまとめ、天津市の1つの幼稚園の教育実践を報告する。

## 2. 中国の幼児教育

中国では、0～6歳の教育は包括的に「学前教育」と呼ばれる。主な幼児教育施設は託児所、幼稚園、学前クラスである。政府衛生部門が管轄する託児所は0～3歳まで、教育部管轄の幼稚園は3～6歳まで、学前クラスは入学1年前の子どもを、その対象としている。幼稚園の設置数には地域差があるため、農村部に住み幼稚園に行けない子どもたちが幼児教育を受けられるのは学前クラスの1年間であることが多いが、1990年以降は中国政府が管理するこのような3つの幼児教育機関以外に、「家庭託児」「幼児活動センター」などのさまざまな幼児教育の機会が提供されるようになってきている（一見,2003）。

南部・桑原(2017)は、中国において1989年に試行的に制定され、1996年および2016年に改正された「幼稚園工作規定」の改正内容を分析している。そして、小学校との接続を重視し遊びを中心とした活動を保育の中心に置く点は変わらないが、1989年の制定時および1996年の改正時にはみられず2016年の改正時に明記されている内容として、「教育活動の過程においては幼児が主体的に探索し、操作実践し、協力して交流し、表現することを支援することを重視し、活動の結果を一面的に追求すべきではない」「幼児の自主的な選択と主体的な学習を支援し、幼児の学習への興味や探求への願望を呼び起こさなければならない」があることを指摘し、中国の幼児教育は、幼児一人ひとりの違いを尊重し幼児の主体的な行動を支援するものへと転換しつつあると指摘している。

このような「幼稚園工作規程」の変遷等により、中国の幼稚園では子どもの年齢段階にふさわしい遊びを通して一人ひとりの子どもの発達を促す幼児教育観が現場に定着するようになり、戸外での自由遊びを一定時間確保したり、遠足や運動会などが多くの園で実施されたりするなど、子どもたちの主体性を重視した教育が進められつつある（人見,2003;劉,2013）。

中国の幼稚園における教育内容は、「健康」「科学」「社会」「言語」「芸術」の5領域である。「健康」では、集団

生活になじみ基本的な信頼関係の構築や清潔な生活習慣を形成すること、「科学」では、問題発見と解決の能力が育ち環境への興味関心を持つこと、「社会」では、他者のかかわりを通して自尊、自信、個性が育つこと、「言語」では、言語コミュニケーションの力が育つこと、「芸術」では感受性、表現能力が育つことなどがねらいとされている（中尾,2008）。

### 3. 天津市河西第 25 幼稚園の概要

天津市の人口はおよそ 1300 万人であり、16 の市轄区に分かれている。そのうちの河西区にある河西第 25 幼稚園は 1985 年に設立され、敷地面積は 1933 平方メートルあり、年少 3 クラス、年中 3 クラス、年長 1 クラスの 7 つの教育クラスがある。園児数は約 200 人である。「心身ともに美を兼ね添えた幼児の育成」を園の理念とし、「幼児の手による美しさの創造、身の回りを美しく装飾、心の美しさを創出するという美術教育」を園の特色として掲げ、子どもたちの生活は規則正しく決められている。表 1 は、年長児の生活時間表である。

#### 3.1 年少クラスにおける教育活動

筆者らは、午前の教育活動を見学した。天津市内の 4 人の保育者も研修のために見学していた。1 か月に 1 回はこのような研修を受け入れているという。

表 1 河西第25幼稚園春夏期一日生活時間表（年長クラス）

項目	時間
登園	7:15～7:35
体操	7:35～7:50
トイレ、手洗い、水分補給	7:50～8:00
朝食	8:00～8:30
自主活動	8:30～9:15
トイレ、手洗い、水分補給	9:15～9:25
教育活動	9:25～10:00
トイレ、手洗い、水分補給	10:00～10:10
戸外活動	10:10～11:00
昼食準備	11:00～11:30
昼食	11:30～12:00
散歩	12:00～12:10
午睡	12:10～14:20
トイレ、手洗い、水分補給	14:20～14:35
おやつ	14:35～14:50
戸外活動	14:50～15:45
トイレ、手洗い、水分補給	15:45～15:55
教育活動	15:55～16:30
夕食準備	16:30～16:40
夕食	16:40～17:10
降園	17:10～17:30

子どもたちは電子黒板に向かって 2 列に椅子を並べて座り、教師は電子黒板の横に立っている（写真 1）。電子黒板に動物が主人公の短いお話のスライドが提示され、



写真 1 年少クラスの教育活動

そのあとに教師が「お話に出てきたリスは友達に何をあげましたか？」と質問した。子どもたちが何人か答えた後で、教師は正答が「微笑」であることを話す。その後、教師が子どもたちに「どんなことが嬉しかったですか？」とたずねると、「お母さんはいろいろなことをしてくれて嬉しい」「お父さんは私を愛してる」「プレゼントをもら

って嬉しい」と子どもたちは次々に答えた。そして、教師が「嬉しい顔をしてみましょう。」「友達の名前を呼んで微笑み合いましょう。」と促すと、子どもたちは椅子から立ち上がって移動しながら友達と微笑み合った。しばらくして、教師が子どもたちに椅子に座るよう指示し、「他に誰に微笑みをおくりたいですか?」とたずねると、子どもたちは、「お父さん」「お母さん」などと答えた。そのような発言を受けて、教師はプレートに父母や祖父母などを表す絵のシールを貼っていき、最後にみんなで歌をうたった。

このような「微笑み」をテーマとした教育活動は、中国の幼児教育の5領域（「健康」「科学」「社会」「言語」「芸術」）のうちの「社会」の領域にあたるものである。日本の幼児教育においては、電子紙芝居等、ICT(Information Communication Technology)を積極的に活用している事例は少ないと言われており、幼児教育へのICT導入についても議論されているところである（神谷,2019）。電子黒板を使用して子どもたちにとって身近なストーリーを提示し「微笑み」について考えさせ、子ども同士あるいは子どもと教師との対話的活動に発展させている河西第25幼稚園のこのような取り組みは、幼児教育におけるICT活用の可能性を広げるものであろう。

### 3.2 年中クラスにおける教育活動

年中児のあるクラスは、2つのエリアに仕切られた教室で、1クラスが2グループに分かれて「芸術」の領域にあたる活動を行っていた。片方のグループは大きなテーブルを囲むように座り、子どもたちは机の上に置かれた彩色や描画のためのさまざまな教材を使って、各自が作成した凧に彩色したり絵を描いたりしていた。他方のグループは、ブロックや連結式の積木やレゴなどの素材が準備された教室で、それらを使って自由に製作していた。

また、別の年中児クラスでは、教室で買い物ごっこが行われていた。教室の中央に子どもたちの背の高さくら



写真2 年中クラスの教育活動

いの2つの棚があり、そこにはクッキーやチョコレートなどの空き箱が並べられており、それらの箱には値段が書かれた紙とともに消費期限が書かれた紙も貼られていた（写真2）。棚の横には机があって、店員役の女兒が箱で作られたレジスターの前に座っていた。その教室の

壁面には、「賢い消費者」はどんな行動を取るかについての絵による説明が掲示されていた（写真3）。



写真3 年中クラスの掲示物

中国では学校教育の中に教育課程として家庭科を設置していないが、小学校では、「科学」という教科に栄養に関する内容が含まれており、「品德と生活」「品德と社会」という教科などに生活教育に関する内容が含まれている（菊地・劉,2005；劉・柴・菊地,2014）。このうち、「品德と社会」の特徴と意義として「身近な生活をよりよく生きるための智慧を学ぶ教科である」ことがあげられており、小学4年生では消費者教育に関する内容が含まれている（劉・柴・菊地,2015）。

日本の幼児教育における消費者教育に関する研究はまだ多くはない（岡野,1992；内藤,2009；杣山,2011）。日本で2012年に施行された消費者教育推進法では、発達段階に配慮して、幼児期から高齢期までの誰もが対象となり、消費者教育を推進していくことが定められている。賞味期限に関する情報を読み取り、食品摂取して健康な

身体を維持することは消費者としての智慧である。これに関連して、日本の幼稚園教育要領の領域「健康」の内容には「自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う」ことが明記されており、「様々な食べ物への興味や関心をもったりするなどし、食の大切さに気付くことが「内容の取扱い」に明記されている。食品の衛生状態を確認して摂取することの重要性への気づきは、幼児期においても遊びを通して培われることが重要であろう。

### 3.3 年長クラスにおける教育活動

年長児は、クラス全体で「恐竜」をテーマとする活動を行っていた。教室では、ダンボールで作られた恐竜に絵具で彩色する子ども、恐竜に関連した本が置かれたコーナーで恐竜の種類を調べて教師に話す子ども、探検隊のようなベストを着用してダンボールで作られた穴の中にあるプラスチックの砂を掘って化石を探す子どもの姿



写真4 年長クラスの壁面構成

などがあつた。教室の上部には空を飛ぶ恐竜が吊るされ



(写真4), 壁には恐竜の絵が描かれており, 棚には紙で作られた恐竜の卵が置かれていた。

このようなプロジェクト型保育はイタリアのレジヨ・エミリアをはじめ, 世界各国で提唱されている(杉浦,2004)。日本においても, 中央教育審議会・幼児教育部会により, 「挑戦的な課題等の共通の目的を設定し, 幼児同士が考えを出し, 協力的工夫して取り組むプロジェクト型の活動を「協同的な学び(活動)」として実施を奨励すべきでないか」(中教審,2003)として幼稚園年長児を対象に協同的な活動の実施が具体的に提案されたことを受けて, さまざまな活動が試みられている(門脇,2008)。

それぞれの幼稚園がもつ文化や地域性, 保育者の保育観など多様な要因が関与するため, 保育の方法論は1つとはならないが, 河西第25幼稚園では, 「幼児の手による美しさの創造, 身の回りを美しく装飾, 心の美しさを創出するという美術教育」という園の特色に基づいた協同的な活動が工夫されていた。子どもの主体的な学びを育む上で, 子どもたちと共に作り上げていくプロジェクト型活動は魅力的な取り組みであり, 中国においても今後ますます実践報告が蓄積されていくことであろう。

#### 4. おわりに

美術教育を園の特色として掲げる河西第25幼稚園は,

教室や廊下の整理整頓が行き届いており, 廊下の壁面や天井には子どもたちの想像力を刺激する装飾が施されていた。子どもたちは一日の生活時間に沿って規則正しい生活を送っており, 落ち着いて生活しているように感じた。

幼稚園での活動内容を伝える保護者向けの掲示物, テーマに基づいた保育活動, 教材の工夫, 協同性を育む保育活動など, 河西第25幼稚園における活動は, 現在の日本の幼児教育において質の高い保育を提供するためにさまざまな施設で取り組まれている工夫と共通するものであった。その一方で, 消費者教育のように, 日本の幼児教育にはあまりみられないものもあった。

OECD(経済協力開発機構)は, 「Starting Strong(人生の出発点を力強く)」を提唱し, 21世紀知識基盤社会に対応した人材育成のための就学前教育の在り方について提言を行っている(OECD,2006)。そこにおいて, 代表的なカリキュラムとして紹介されているのは, 西欧文化の中で作られたものが中心であり, アジアの幼児教育についてはあまり知られていない。

子どもたちに質の高い幼児教育を提供するために, 同じアジアに位置する国々の保育者と交流し, それぞれの保育環境において積み上げられてきた工夫を共有し, それぞれの文化に合わせた方法で生かしあうことも, 日本

の保育者にとって必要であると感じた。

## 引用文献

中央教育審議会・幼児教育部会（第9回）議事録(2003)

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chu](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chu)

kyo3/008/siryo/04030501/001.htm（2019年5月1

日閲覧）

一見真理子(2003) 中国の幼児教育—ここ十年の変化と

今後— 教育と医学,51,2,116-122.

門脇薫子(2008) 幼稚園における「プロジェクト型の保

育」導入の試み 『プロジェクト型保育の実践研究』

角尾和子編著 北大路書房 pp.17-19.

神谷勇毅(2019) 幼児教育における ICT 活用の可能性

鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部紀要 人文科学・社会

科学編 (2), 197-205.

菊地るみ子・劉智萍(2005) 中日両国小学生の衣生活教

育の現状と課題—天津市と高知市における事例調査

を通じて— 日本家政学会誌,56,1,31-39.

内藤 道子(2009) 幼児期における金銭教育の試み--目標

と内容の試案 消費者教育,29,179-186.

中尾美千子(2008) 中国の幼児教育事情について『就学

前教育』—日本との共通点とその差異点について—

関西女子短期大学紀要,18,37-46.

南部仁孝・桑原綾(2017) 文革後中国における幼稚園教

育の変容—「幼稚園工作規程」を手がかりに— 京

都大学大学院教育学研究科紀要,63,465-488.

OECD(2006) Starting Strong II : Early Child-hood

Education and Care 星三和子・首藤美香子・大和洋

子・一見真理子(訳) (2011) OECD 保育白書—人生

の始まりこそ力強く：乳幼児期の教育とケア

(ECEC)の国際比較 明石書店 pp.265.

岡野 雅子(1992) 子どもの金銭感覚の発達 第2報

家庭教育との関連:家庭教育との関連 日本家政学

会誌,43,11,1087-1097.

大関さわ子・吉川はる奈(2009) 中学校技術・家庭科家庭

分野における幼児の観察を用いた保育教育実践の検

討 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター紀

要,17,71-75.

劉郷英(2013) 中国における乳幼児教育・保育の動向と

保育者養成改革の現状と課題に関する検討 福山市

立大学教育学部研究紀要,1,135-147.

劉智萍・柴英里・菊地るみ子(2014) 中国の学校教育にお

ける食育カリキュラム開発(3)—中国の小学校「品

徳と生活」「品德と社会」における食育内容の分析—

高知大学教育学部研究報告,74,1-12.

劉智萍・柴英里・菊地るみ子(2015) 中国天津市内の小学

校における食育実践の検討 高知大学教育学部研究

報告,75,115-121.

杉山 貴要江(2011) 幼児期の消費者教育教材の制作

兵庫大学短期大学部研究集録,45, 19-27.

杉浦英樹(2004) プロジェクト・アプローチにおけるプ

ロジェクトモデルの妥当性ーレッジョ・エミリアの

理論と実践による検討 上越教育大学研究紀

要,23,2,393-427.

## 謝辞

視察のためにご支援いただきました天津師範大学教育科学院の Li Mengli 院長と視察を快く受け入れてくださいました河西第 25 幼稚園の朱鳳君園長、貴重なご助言をいただきました高知大学名誉教授菊地るみ子先生、そして、翻訳にご協力いただきました高知大学国際連携推進センターの林翠芳教授、天津師範大学の李陽さんに記して感謝の意を表します。